

1 「まちづくり」とは何か

定義：まちづくりとは、地域社会に存在する資源を基礎として、多様な主体が連携・協力して、身近な居住環境を漸進的に改善し、まちの活力と魅力を高め、「生活の質の向上」を実現するための一連の持続的な活動である。

10の原則

- 1) 公共の福祉の原則…基礎的・文化的な生活のための条件を整える
- 2) 地域性の原則…固有の地域資源と潜在力を生かして進める
- 3) ボトムアップの原則…地域社会の住民と市民の発想を元に下からの活動を積み上げる
- 4) 場所の文脈の原則…歴史・文化の集積としての「場所の文脈」の延長としてデザインする
- 5) 多主体による協働の原則…個人・各組織が自立しつつ、補完し合い、連携・協働して活動する
- 6) 持続可能性、地域内循環の原則…一挙に特定の目的を達成するのではなく、漸進的に進める
- 7) 相互編集の原則…目標とする将来像が事前確定的でなく、個々の活動が統合的に組み立てられる
- 8) 個の啓発と創発性の原則…住民一人ひとり、個々の組織の個性と発想が生かされる
- 9) 環境共生の原則…自然・生態学的環境の仕組みに適合し、物的環境を維持発展させる
- 10) グローカルの原則…地域性に立脚しながらも、常に地球的な視野で構想する

(日本建築学会 2004)

2 田村の横浜での実践は「まちづくり」か？

2-1 六大事業は市民参加のまちづくりではない

「田村の著作には『シビルミニマム』や『コミュニティ』という言葉が全くといっていいほど登場しないように、住民生活に密着した環境整備に対する彼自身の関心や問題意識は著しく希薄だった。」

「田村のいう『都市づくり』や「まちづくり」は基本的に大プロジェクト方式で進められた横浜の都市改造事業の別名であって、当時の「まちづくり運動」が提起していたコンセプトとはまったく無関係だったのである。」

「横浜市の大六事業は『まちづくりの胎動』というよりはむしろ『遅れてきた都市改造事業』としての性格を色濃く持つものであり、それは飛鳥田市政が登場する前の平沼市政における『横浜国際港都建設総合基幹計画』(1957年)の系譜に連なるハードな都市大改造計画に他ならなかった。」(広原 2011)

「一つ鳴海の反省がある。それは6大事業の構想をつくる過程で、飛鳥田市長が掲げた市民参加ができなかったことである。市民参加なしで構想をわずか1年半でつくった。むしろ、計画への市民参加なしだからこそできたといえるのかもしれない。」

普通の行政手続きによる単純な市民参加の方法では、こういう構想はできなかったのではないかとも思う。そういう意味では横浜市の6大事業計画は、横浜の戦後の復興の遅れと、高度成長のなかで急激に都市化が進行した時代ゆえに要請・許容された計画で、非常に特殊な例ともいえるかもしれない。」

(鳴海 2010)

2-2 田村の著作のタイトルから

◆横浜市在籍時

- ・『都市を計画する』1977年、岩波書店
- ・SD別冊 No.11『横浜＝都市計画の実践的手法 その都市づくりのあゆみ』1978年
(→昭和52年度日本建築学会業績部門学会賞「横浜市における都市計画活動―都市空間創造への総合的実践」 田村明「実践的都市計画論」)
- ・『環境計画論』1980年、鹿島出版会

◆横浜市退職後

- ・『都市ヨコハマをつくる 実践的まちづくり手法』1983年、中公新書
- ・『まちづくりの発想』1987年、岩波新書
- ・『江戸東京まちづくり物語』1992年、時事通信社
- ・『まちづくりの実践』1999年、岩波新書
- ・『まちづくりと景観』2005年、岩波新書

横浜市在籍時は自身の実践を「都市計画」として考えている。

横浜市退職後「まちづくり」について研究・教育・啓蒙活動を行うなかで、自らの実践を「まちづくり」という観点から捉え返した。(→その結果「市民の政府」論が誕生する?)

3 逗子市まちづくり懇話会

◆横浜市の時とは異なる進め方で

「こういう行政の中で総合的な調整をどうやるのかというのが一番苦労しているものですね。それなりに苦心したと思いますよ。それはやっぱり横浜みたいな350万都市でね、やるのと逗子のまちとは、やり方はそれぞれ違うと思いますよ。そのまちの個性がありますから。私がやったのだけが一番いいとも思わないし、その状況の中でも、でもやればやれるんですよ。」(議事録31 1991/4/9 p16)

◆市民参加の必要性

⇒別紙「田村明の「市民」に関わる発言」参照

◆ランドデザインを実際に策定したのは若い世代

田村明(1926年生まれ)

林泰義(1936年生まれ、計画技術研究所、ランドデザイン研究会事務局)

長島孝一(1936年生まれ、ランドデザイン研究会副会長)

小林重敬(1942年生まれ、ランドデザイン研究会会長)

武内和彦(1951年生まれ、ランドデザイン研究会委員)

1970年代の「実践的都市計画」から1980・90年代の「住民参加型まちづくり」への橋渡し

<参考文献>

日本建築学会編『まちづくり教科書1 まちづくりの方法』2004年 丸善

広原盛明『日本型コミュニティ政策―東京・横浜・武蔵野の経験』2011年 晃洋書房

鳴海正泰「飛鳥田市長の6大事業のまちづくりの立案過程」『自治研かながわ月報』123号 2010年